

世界はあなたを忘れていない

山 田 直 子

アムネスティ・インターナショナル (Amnesty International) とは、すべての人が、世界人権宣言や国際法に規定された人権を享受できる世界の実現を目的とするNGOだ。ロンドンの国際事務局を中心として約80ヶ国に支部を置き、150以上の国々に約220万人の会員・支持者がいる。

21世紀を迎えた今日でもなお、多くの国で、暴力的活動をしていないにも関わらず、自らの信念、人種、宗教、肌の色、出自などを理由に囚われの身となる者(いわゆる「良心の囚人」)が後を絶たない。秘密裏に「良心の囚人」が処刑されてしまうことも珍しくない。

私がアムネスティの会員として活動を始めたのは大学院生の頃だった。「人権侵害をしている政府・武装集団に対し、当該行為の中止を要請する手紙を書く」という平和的手段により「良心の囚人」を救う、という(当時の私にとっては余りにも突き抜けた)基本コンセプトに心動かされたからだ。正直、半信半疑で始めた活動だったが、担当したミャンマー人が悪名高いインsein刑務所から釈放されたときには、自分の家族が自由になったように嬉しかった。仲間と祝杯をあげたことを、今でも鮮やかに思い出す。

アムネスティの活動において、人権侵害者への「手紙」は単なる手紙ではない。それは「私たちは、あなたが何をしているか知っています」という警告だ。同時に「良心の囚人」にとっては、「私たちは、あなたが今そこで苦しんでいることを知っています。あなたを助けたい。もう少しだけ持ち堪えてください」という激励となる。世界中から届く手紙が増えるにつれて刑務所内での処遇が改善した、と多くの元「良心の囚人」は語る。

「人は二度死ぬ。初めの死は肉体の死。そして、他の人の記憶から消え去ったとき、真の死が来る」という。ならば、イエスはいまだ生き続けていると言えるのだろう。しかし一方で、私たちの世界には、生きながら忘れ去られて真の死を迎えようとしている人々が数え切れないほど存在している。

誰であれ、生きながら死ぬようなことは、あってはならない。

(法学部専任講師)